

Café

カフェの話 cafe LEON
1974年1月某日 PM8:00 原宿表参道にて

冷たい冬の風が吹く街。暗くなった通りには、大きな櫛の街路樹が揺れていた。人の気配もなく、長く続く古びた同潤会アパートの窓に、時折ボツリボツリと明かりが灯るだけの街。シャッターが閉められた骨董店オリエンタルバザール。白くそびえるビル。8時を過ぎたばかりというのに、この街は眠ったように静かだ。大きくゆるやかな坂道は、誰もいない。後ろから低い車の轟音が聞こえている。その音は滑るように近づいて、赤いランボルギーニが櫛の木の下に止まった。ドアが跳ね上がり、現われたのは、毛皮の長いコートをはおった大柄な美人。彼女が身をひるがえして向かったのは、交差点近くの「カフェ・レオン」

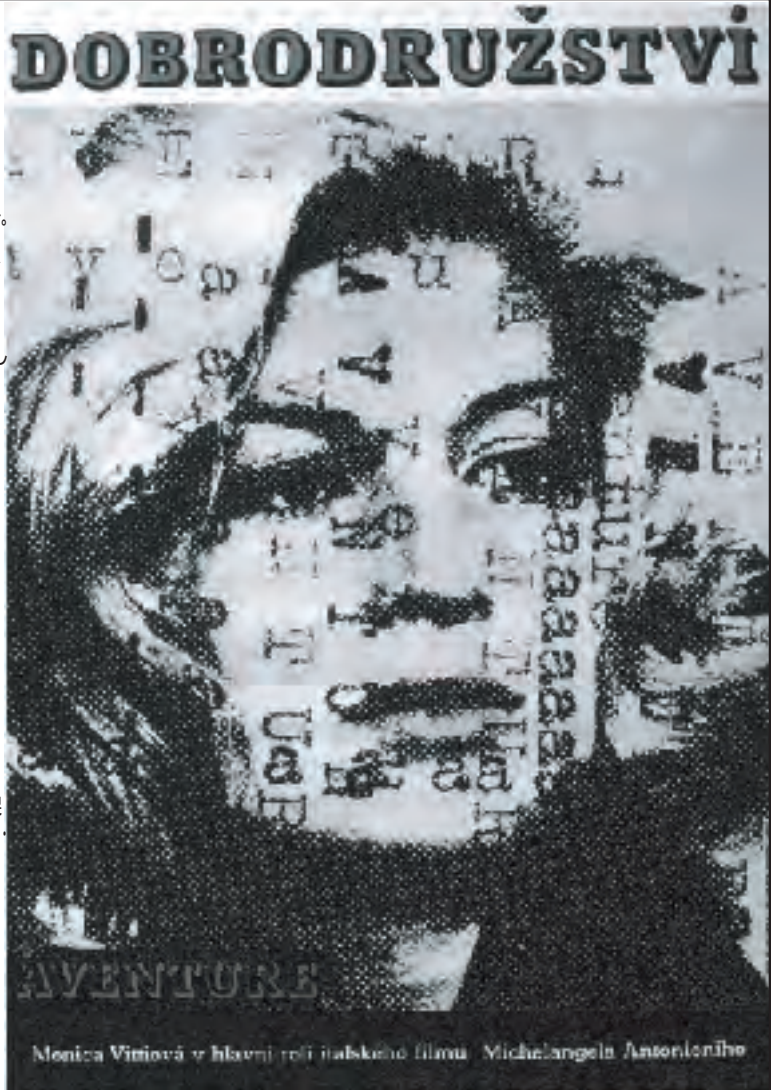
その夜、表参道で明かりをつけていたただ一つの店。その店は、二つほど階段を上るとガラスのドアがある。15坪くらいの暗く冷たい店内。黒い壁におおわれた客席の中央には、ガラスの仕切りがあり、店を縦に区切っている。彼女に誘われるように店に入る。彼女はガラスの仕切りの向うに、白い横顔を見せて腰掛けていた。私は反対側の椅子に腰掛けた。すると彼女は立ち上がり、店の男達に煙草の火を点けさせた。その中で背中にもでかかる長髪の背の高い男が、彼女のお目当てなのだろう。彼女は男の前で毛皮を脱ぎ捨てた。鼻筋の通った白い横顔は、分厚いつけ睫毛と濃いアイシャドーで彩られている。しばらく男とひそひそと話し合っていた彼女が、何が面白かったのか、急に低い声で笑い出した。……オ・ト・コ？ 彼女は彼だった。

私は目の前におかれた冷めたコーヒーにミルクを入れて飲みほし、ギラギラした店を出た。櫛並木の通りには冷たい木枯らしと、輝く星空。もう一度交差点に向かうと、暗闇の中に教会の十字架が見えている。明日は、入学試験。さあ、もう帰らなくちゃ……

1994年 ミルクホールタイムス掲載より

このカフェ・レオンのお話は私がうんと若かった頃、経験したことです。当時の原宿は今とは違って静かで何も無くだただ美しい町でした。カフェ・レオンは今では珍しくないでしょうが、冷たく前衛的な作りで、若い私にとっては、眩しいほどカッコ良かったです。珍しくないと言えば、女性の格好をした男性も今では驚くことではなくなりましたが、闇の中で見上げた教会もその数年後、ラ・フォーレになり、それと同時に原宿は、ファッションの街として様変わりしていきました。

その頃ミルクホールは、アクセサリーショップとしてオープンしたばかり。私がミルクホールに出会うのはこの9年後の事です。歳月と共に、カフェも変貌して行きました。人生の長い時間をコーヒーと関わるようになっていった色々なお話、これから、一つ一つ聞いて頂きたいと思います。



鎌倉の猫事情 第八十二話

COLUMN

久しぶりに電車に乗って出掛けました。途中北鎌倉を通りかかると、白い梅が満々と咲いていました。いつの間にやら、鎌倉に春が来ていたようです。道理で今朝は鼻がやたらむずむずしてしょうがなかった訳です。何しろ家の中では、グーニーとスィービーが、布団の上でいかにも寒そうに丸くなってばかりいますから、春が来たのにも気づかないわけです。

うちの猫達も、もう人間で言えば40歳の坂を下りはじめた熟年夫婦です。毎日退屈しのぎに彼らを見物していると色々な発見？があります。まず、食べる物の好みはかなり違います。グーニーは味付けの濃いものが好き、たとえばカツオの角煮なんかには目がありません。スィービーはお刺身が好き、新鮮かどうかを見分ける舌は、なかなかのものです。4時過ぎにスーパーで買った特売のお刺身には見向きもしません。買ったお店をも見分ける鋭い味覚を持っていますが、グーニーは買い置きした佃煮で十分満足しており、お店の指定も特にありません。グーニーはシャム猫なので、きっと祖先はタイ国あたりに生息していたのでしょう。そのせいか極端に寒さに弱く、グーニーが昼間外をウロウロしていると、ミルクホールのスタッフは「あ、今日は意外と温かいんだ」とわかるそうです。スィービーの出身は、色白の特徴から北の国から来たんだとわかります。寒さには少し強いようです。二匹ともが歓迎するのは鯉節で、これはどこの出身の猫でも文句なしに好物です。なぜ日本の猫は鯉節が好きなのか？ これは興味深い事柄です。今度外国へ行くときは、是非鯉節を持参して、向こうの猫達に試して調査してみたいと思っています。

こんな風に少々の性質の違いはあっても、いつもは仲のいい夫婦です。が、先夜、食卓の周りでまだ何かでないかなと集まっていた猫達を眺めていました。すると、スィービーが椅子の上に座りそれをグーニーがただじっと見つめていたのですが、何を思っていたのか、普段おとなしいスィービーがグーニーの顔面にいきなりパンチを食らわしたのです。いつも我儘なグーニーの事が、腹に据えかねていたのでしょうか。いきなりパンチを食らったグーニーは、ぼかんとスィービーを見つめていました。なんだか、どこかで見たような風景じゃありませんか。よくあることで……人にも猫にも……

to be continued



LIVE

ミルクホールの BAR TIME を
ライブでお楽しみ下さい。

2009 Milk Hall

古布・骨董通信

2/21 Sat.

19:30~

by HALF MOON

琢磨 仁
琢磨 啓子



HALF MOONは、愛と平和を歌います

2009年、ミルクホールでは毎月一度、テーマを決めて
ガラクタ・アンティーク・骨董の催事を開催いたします。
2月は、古布・古裂・きもの市を開催いたします。
3月は、ミルクホールの骨董・ガラクタ・蚤の市を予定しています。
催事の日程・内容は毎月変わりますので、タイムス紙上で、
お知らせ致します。

2月10日(火)

11日(祝)

きもの市

着物・帯・古布など

3月14日(土)~

20日(祝)

蚤の市

日本の和洋家具を中心に、
骨董・ガラクタ市

ミルクホールタイムスは、
毎月25日に発行しております。
定期購読ご希望のお客様は、
お申し込みは、当店で、又は、
お葉書、FAX、メールなどで。

ミルクホールタイムス編集部
〒248-0006

鎌倉市小町2-3-8

PHONE 0467-22-1179

FAX 05034882872

e-mail/

info@milkhall.co.jp



HISTORY

場所の記憶 32
KAMAKURA

ミルクホールのルーツ 18

昭和三十五年一月二十三日の朝である。
当時、西御門で新婚生活を始めていた私は、その朝、通勤のためバスで鎌倉
駅に出て、そこに燃えさかる焔を見た。と、長いことそう信じていた。

かまくら春秋 465 磯見辰典「鎌倉小町百六番地 ~昭和のはじめの子供たち」より

かまくら春秋1月号から新しく連載が始まった冒頭部分です。作者はミルクホール
のルーツでも何度か登場して頂いている磯見辰典氏です。この駅前で燃えさかっ
ている焔が焼いたのはミルクホールのマスターの生家でした。大変な火事だったよ
うです。文字通り家族はこの火事で全てを焼失したのでした。当時中学生だった
マスターのお姉さんは学校に行くために一人起きていて、火事に気がつき眠って
いる皆を起こして家族は助かったそうです。焔の中、階段を駆け下りて行った恐怖
その後は20年間忘れられなかったというほど、恐ろしかった
そうです。当時、小学生だったマスターはお父さんに起こされ
火の中から、何かしら持ち出すために階段の下で父親の投げ
る荷物を次々と受け止めていたという話です。ところが、当
のお父さんは前夜の酒が抜けていなかったらしく、火の中で、
必死で受け止めていた荷物もさほど重要だとは思われない物
が多かったそうです。ただ、その際ランドセルを忘れず背負っ
ていたという事で、学校でえらく褒められたという話です。
お姉さんの話によると、その後誰にとっても辛かったその火事
を話題にすることができずその事の方が辛かったという事です。
その火事で失ったもの、その火事で取り戻されなければなら
なかった事、それが家族それぞれの出発点となりました。次号へ続く



Information

ミルクホールタイムス 総集編 ¥1800

「鎌倉ミルクホールタイムス」

No.001 ~ No.100

ミルクホールタイムスを1976年の創刊号より、100号まで
人気連載中の「鎌倉の猫事情」を第一話より掲載いたしています。

ミルクホールタイムス定期購読募集

年間購読料 ¥1500





行發社期報報刊

古布・古裂

きもの市

2/10_{Tus.} 11_{Wen.}



火曜日は、
ミルクホールの着物の日

ミルクホールでは、きもの市を始めました。
2月第二火曜・水曜(祝日)は、第一回「きもの市」
です。着物・古布・和の小ものなど揃えています。

帯
きもの **30% off** 和の小もの **20% off**

ミルクホールの着物の日は毎週火曜日にです。着物の日では、着物20%引き
帯と和の小ものは10%引きのサービスを行っています。
2月のきもの市ではさらに、着物は30%引き、帯とミルクホールオリジナル
小物は10%引きです。春の装いなどを揃えるチャンス。ご利用下さい。

✂ 古布

日本の上質な絹もの
1mより 色々
大島紬・絞り・銘仙など
日本の古い着物を丁寧に解いて
布地にしました。
柄の見やすい巻物にしております。
ご希望の長さ等、お申し付け下さい。
反物

1mにつき1000円ほどの価格です。
ご自分で色々なものをお作りになる
方達のご要望に合わせて、多種多様
な日本の布地を取り揃えています。

端布組み合わせ
¥300より

✂ 帯・つくり帯

大正・昭和のアンティークの帯、
ミルクホールのオリジナル
おたいこのつくり帯など。
帯は、締めるのが面倒です。
つくり帯は、簡単に結べて、
締め付けません。
初心者の方だけでなく、
着慣れた方にもお勧めします。

名古屋作り帯 ¥3800より
半幅帯 ¥2000より

✂ くるみボタンと かんざし

くるみボタン ¥100より
くるみボタンコム
手作りかんざし ¥1800より



✂ 半衿・帯揚げ

昔の着物をほどいて絹の半衿に
仕立てました。
着物のおしゃれのポイントは半衿です。
イントは半衿です。同じ着物も、半衿を
変えるだけで、まるで別の着物のよう
に生まれ変わります。自分の個性で、着物
に合わせたコーディネートをしてみましょう。

無地の半衿 ¥500より
銘仙・絞りなど ¥800より
帯揚げ各種 ¥700より

着物・アンティーク古着

大正・昭和初期に大流行した斬新なデザインの銘仙や
お召しの着物、高価な大島紬も買いやすいお値段で
入荷しています。

大島紬	¥9800より	琉球緋	¥4800
久留米緋	¥7800より	銘仙着物	¥6500より
お召し	¥6800より	小紋	¥3800より

➡ ミルクホール きもの相談室

ミルクホールでは、着物に関するご相談を承ります。
おしゃれに着物を着てみたい。自分の個性にあった着物
ってどんな着物がいいのだろう。簡単に独りで着付けが
できる方法はあるのかな? 着物と帯の組み合わせって、
難しい・・・半襟や帯揚げ、帯締めコーディネートは?
などなど、着物は洋服とは違い、なかなか簡単には行き
ませんが、そのややこしさが楽しさになると、着物の
魅力にとりつかれるのです。ミルクホールのスタッフが
貴方の着物のご相談にお答えします。が、私達の手へ負え
ないような正式な着物の作法についてお困りの場合は、
着物の専門家に伺ってお答えいたします。

男物の着物、着付けについてもお気軽にご相談ください。

ANTIQUE

伊万里・古陶磁
和洋家具
古民芸
アンティーク

♠ 和洋家具

大正時代ガラス水屋
昭和初期丸テーブル
明治・大正時代小箆笥各種
昭和初期デスク色々
明治～昭和文机各種
大正時代ガラスケース



♣ 古陶磁

古伊万里染付鉢
幕末伊万里そば猪口
明治錦絵七寸皿
明治銅版小皿
伊万里輪茶碗・そば猪口
古伊万里豆皿・なます
明治瀬戸石皿・鉢
伊万里蓋お碗各種

♣ 古民芸・骨董

大正時代鏡台
お椀・茶托・御膳

◆ アンティーク